

会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第2回 第2専門部会		
開催日時	平成29年（2017年）2月23日（木） 18時00分～20時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	加藤委員、國定委員、宗前委員、廣瀬（史）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他		
議題	1. 前回のふりかえりについて 2. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 3. その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 2 回第 2 専門部会 議事要旨（案）

日 時	平成 29 年（2017 年）2 月 23 日（木）18 時～20 時
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席者	加藤委員、國貞委員、宗前委員、廣瀬(史)委員 計 4 名
欠席者	赤井委員 計 1 名
事務局	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野
傍聴者	0 名
案 件	1. 前回のふりかえりについて 2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 3. その他
資 料	○【資料 1】平成 28 年度豊中市総合計画審議会 第 1 回第 2 専門部会議事要旨（案） ＜第 4 回総合計画審議会の資料＞ ○【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案） ○【資料 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）施策の括り ○【資料 4】総合計画等調査特別委員会における「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」への意見について ＜第 1 回第 2 専門部会の資料＞ ○【資料 1】市民活動団体調査結果一覧表
会 議 録	下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

部会員総数 5 名中 4 名の方にご出席しているので、成立要件を満たしています。

●資料について

事務局

（資料について説明）

●「1. 前回のふりかえりについて」

●「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について」

部会長

本日は、前回の市民活動団体等の意見を踏まえながら、論点を整理していただき、前期基本計画（素案）についてご意見をいただければと思います。

委員

基本計画の 17 施策に対して、分野別計画があるものと、ないものを教えていただきたいと思います。特に、5 章や施策「4-2 市民文化の創造」は、どのような分野別計画があるのか、あるいは関係しそうな計画があるのか教えていただければと思います。

趣旨としては、総合計画でどこまで書き込む方がよいのかという点で、分野別計画があるものは、総合計画では抽象的な書き方でも分野別計画に書き込んでいくことが可能ですが、例えば、参画・協働のような分野別計画がないものは、総合計画で取組みますと記載しても受け皿がなく、後で何もしないこ

とになるのではないかと思います。分野別計画と総合計画の関係性において、どこまで書き込むのかの区切りを知りたいと思いました。

事務局

まず、施策「4-2 市民文化の創造」は、「文化芸術推進プラン」などがあります。また、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」では、「行財政運営方針」、「コミュニティ基本方針」、「豊中ブランド戦略」などがあります。参画・協働については、「自治基本条例」があります。

部会長

魅力創造が、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」にあることについて、ここで実際に施策が実施できるか心配します。シティプロモーションは、もっと予算をつけて具体的に専門的にまちづくりとして施策を打っていきべき段階に来ていると思います。基本計画（素案）の本文を見ると、住んでいる方が“わがまち意識”を持てるように啓発していくと読めます。それは魅力創造の一面ではありますが、最近では、外部の人に選んでもらうという視点が必要で、情報発信等、施策を進めていく必要があるのではないかと思います。その中で、括りとして、地元の住んでいる人への魅力創造で終わっていることが心配です。

委員

3章か4章に入れる方がよいということですか。4章の総論ということになるのかもしれませんが。

部会長

魅力創造課ができる前、とよなか都市創造研究所が特集された雑誌で、魅力創造とは外部をターゲットとしていたと思います。この計画では、内部の住民を対象とするのですか。

事務局

現在、ブランド戦略においては、東京圏の子育て世帯へのプロモーションなども展開しています。転勤世帯などに向けて「転勤して住むなら豊中」といった冊子をつくり、不動産業者や企業へ配布、アピールも進めています。ご意見のとおり、外へ向けての発信も大きな柱です。

部会長

主な取組み「シティプロモーションの推進」の本文が、「～愛着を育みます。」となっていることについて、それでよいのかと思っています。「関心を高めて住んでもらう」ような表現の方がよいのではないかと思います。また、先ほども言いましたが、魅力創造が施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」で、財政に関する施策と同じところに入っていることが気になります。ここに入ると、税金を納める人（タックスペイできる人）を増やしていくという面から書かれることが多いかと思います。魅力創造課は、どこの部署になりますか。

事務局

都市活力部で、文化芸術や産業振興などを担当する部署です。庁内の議論でも、3章がよいのか4章がよいのかと議論をしてきた経緯があり、最終的に、どの施策にも魅力発信を意識していくことで、5章に位置付けています。魅力発信は目的ではなく、手段であるという考え方で整理をしてきました。

委員

要は、プラットフォームだと思います。考え方はよいと思いますが、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」において、他が、ガバナンスや施設集約のどちらか言えばスマートマネーの内容、節約しながらうまく使うといった内容に、魅力を高める内容があります。あってもおかしくはないのですが、実際に動き出すと行革の内容と受け止められるのではないかと感じます。中和剤といいますか、シビアな内容の中にあって、魅力創造の取組みが実際には動かないのではないかと懸念が生じると思います。シティプロモーションを前面に出していく方法がないものかと考えます。

全般的に悩ましいと感じますので、目次の構成が具体的に結果を出していく、あるいは結果を検証していくようになっている一方で、例えば市民活動団体との連携など、どこの分野にも引っかからないよ

うな戦略性が薄くなっているのではないかという気がします。団体からの意見もそういったところから出てきているのではないかと思います。ただ全部取り上げるのは難しいと感じています。例えば、各章の最初に、総括の表現を入れるとよいと思います。今の構成を崩さずに、ご意見を取り入れるのであれば、各章にサマリーをいれる方法はあると思います。5章であれば、そこに「これは税金対策だけの話ではなく、今住んでいる人だけでなく、これから住む人に向けてのことも書いてある」といったことを表現するという方法はあると思います。

事務局

冊子としては、基本計画の前段に基本構想を入れて1つの冊子にしたいと考えています。基本構想には、基本的な考え方、各章のサマリー的なものなどを示しています。しかし、現後期基本計画は、基本構想があつての施策の見直しなので、改めてサマリー的なものを入れた構成にしています。

現後期基本計画も、基本構想と同じ文章を、基本計画の各章の頭に入れるというつくりとなっています。同じような取りまとめ方も考えられるかと思っています。

委員

市民には、全てを通してでは分かりにくいので、基本構想に掲載している内容でも基本計画に入れて、分かりやすくした方がよいと思います。

委員

理念なので、つくりとして大事に扱った方がよいと考えます。章全体がなぜこういった作り方をされているのか、どういった考え方で章を構成しているのかを示すとよいと思います。

部会長

繰り返しになりますが、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」の現状と課題の3段落めの「さらに～」が、付け足しのように気になります。豊中市民に常住者としてウェルカムであるというメッセージは示されていますが、都市魅力創造は、転出する人、新しく転入する人が対象なので、もう少し説明しないと、今のままの文脈では伝わらないと思います。新しいテーマなので、どこで取り扱うか難しいのはわかりますが、この5年間の中で、もう少し大きく位置付けてもいいのではないかと思います。1章から4章は予算措置がはっきりしています。そういった財源がはっきりしているところに位置付けてもよいと考えます。現在、施策「5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築」が、予算をつけにくい表現でコストカットの方向になっているので、魅力拡大のために投資していくことが、文脈で書きづらい点ではないかと思っています。担当部署とも相談し、前文をもう少し考えてほしいと思います。

事務局

担当課と相談しての結果ですが、再検討します。

部会長

市民活動団体から緑被率の意見がありましたが、緑についてはいかがですか。

委員

団体の意見では、緑の量は増えているが種類が減っており、緑の質が下がっているので、緑の質を高める取組みが必要ではないかのご指摘だったと思います。例えば、施策「3-1 快適な都市環境の保全・創造」の主な取組み「都市緑化の推進」の中に、そういった戦略が出てくるきっかけが総合計画にないというご指摘ではないかと思っています。分野別計画で具体的に書いていくことかと思いますが、総合計画にあって、それを受けて分野別計画で緑の多様性を高めましたというストーリーにしたいのではないかと思っています。

事務局

担当課に確認したところ、現在、環境審議会において生物多様性の戦略づくりが議論されているところのようです。都道府県は策定義務があるようですが、市町村においては努力義務という位置付けになっており、つくるか、つくりなないかを議論されているところですので、その動向をみながら、総合計画

に反映したほうがいいのではないかと思います。

部会長

そちらの議論の動向をみていただくことでお願いします。豊中市で緑の質の問題で取り組めるとすれば、「緑視率」ぐらいではないですか。大阪府ぐらいであれば多様性の方策もたてられるかと思いますが、市域だけでは面積が狭く、またすべて市街化区域の中で、生産的な議論にならないのではないかと感じます。

委員

市民活動団体から意見が出ていたと思いますが、観光の点について、もう少しふれてもよいのではないですか。現在、文言としてどこにも出てきていないので、例えば「観光にも力を入れて、豊中ブランドをPRする」など、大きな流れの中で一文あった方がよいのではないかと思います。観光という視点での取組みが、まちおこし、産業振興、また国際化にもつながっていくのではないかと思います。

事務局

観光に関する取組みはこれまで長らくありませんでしたが、近年、民間の旅行会社とタイアップしてバスツアーを行ったり、千里ニュータウンへの視察に対応するための観光冊子を作ったりしています。

部会長

住宅都市だと、観光に取り組むことが恐くなってしまふのかもしれないかもしれません。施策「3-4 良好な住環境の形成」の主な取組み「大阪国際空港を活かしたまちづくりの推進」の点からも、空港を利用している方はほとんど市民ではないので、観光を意識したまちづくりを進める方がよいと思います。

委員

空港を活用した取組みとして以前行ったのが、就航都市との連携で、獲れたての魚を空輸してもらい豊中市民が新鮮な魚を食べられるというもので大人気でした。しかし、プロの業者が来る場になったりして、現在はしていませんが、この考え方と同じで、豊中にあるものを活かすといったものです。

豊中市には音大があり、その前の通りを「音大通り」としています。しかし名前だけで何もないので、例えば、ここに楽器を持ってくれば修理ができるといった企業誘致を考えられます。前回、団体との意見交換で豊南市場をインバウンドとして活用してはどうかという意見がありましたが、それもひとつだと思います。よそにはない資源を活かすという視点で考えることが大切だと思います。音大があるというのは、他にない資源なので、活かしてはどうかと思います。また、音大の先生との話で、学生の発表する場がないとのことで、大阪国際空港のロビーにステージを作って発表しています。しかし、音がアナウンスの妨げにならないようにしないといけないので、20時以降の発表となっていますがリピーター、ファンがいるようです。セミプロも一緒にやっているのです、そういった取組みをもっと市民に広げていくとよいと思います。どうも一部の人にとどまってしまうっており、宣伝、PRの仕方をもっと考えたほうがよいと思います。

実際に形を見せていくことが大切で、南部地域の活性化は大賛成です。何かひとつ、実際にすることができるとよいと思います。楽器の修理は、今、ヨーロッパに出しているとのことですが、それが豊中市の音大通りにいけば、全部修理できるとなれば、ひとつの特徴になると思います。地域の資源は歴史だけでなく、これから未来に向けた観光、例えば体験できる場所、ものづくりなど体験型の観光などをつくっていくとおもしろいと思います。今もいろいろされており、豊中の特徴は何かをずっと考えていますが、どうも南部にネタ、種がありそうな気がしています。

部会長

魅力創造、観光は、イベント等のソフト政策と、まちづくりのハード政策といった二面性があると思います。今のインバウンドは、まちづくりの方で、まちづくりのビジョンがあるから、観光をどう使いたいかということになるのだと思います。

万博をレガシーとして残せたのは大阪だけだそうです。千里という偉大なるレガシーを残しています。愛知万博も環境問題で、いくらトヨタの地盤でまちづくりができたということですが、そういった例は世界であまりなく、評価されているというお話を聞きました。まちづくりが最終目標であってこ

そ、観光も意味があり、観光もまちづくりで、イベントだけでは意味がないということではないかと考えます。シティプロモーションがソフト施策だけで終わらないようにしてもらいたいと考えます。南部地域活性化プロジェクトで観光という文言を入れることも考えらるので検討してください。

委員

観光を推進していく上で、実際に市がお金を出してイベントをどんどん実施していくのには限りがあります。これまで何もなかったまちに人が多く来るようになっており、インバウンドの風向きはいつ変わるかわからないというのが正直な思いです。つまり、市が観光を推進していく時にできることは、いかに情報をすいあげていくかということと、それをどうアレンジしていくかということと考えます。市内で、誰がどこでどういう取組みをしているかを把握し、それを少しだけ後押しするという関係ができれば、それは単に観光というよりも、市民活動団体、市、中間支援団体のきれいな関係ができていることを意味するのだと思います。観光客を呼ぶ、市の魅力を高めていくといった時に、ツールとして観光自体も目標にはなるとは思いますが、もう一つは、施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」に関わりますが、いろいろな人と手をたずさえながら進んでいくまちづくりを実現していく時に、いろいろな人たちと絡める市政である、市役所機構であるということは大事なことであると思います。

部会長

観光という文言について議論がありましたので、検討してください。

委員

施策「3-4 良好な住環境の形成」の主な取組みに「千里中央駅周辺の活性化」がありますが、書きぶりはこれでいいのですか。

事務局

官民で協議の場をもっていこうという話で、どういうアウトプットになるかはまだ見えていない状況です。平成 32 年度には北大阪急行の延伸があり、千里中央の新たな魅力を打ち出していくのが、この 5 年間のテーマだと考えています。市内ではバス交通の変更などの検討事項もありますが、もう少し大きな視点で、例えば、第 2 名神ができて南部からつながるようになる、なにわ筋線ができて関空から千里中央までつながり、さらに大阪国際空港とも横でつながっているといった、逆に立地が増えていく中で、千里中央という拠点をどう作っていくかが主な取組みになるかと思っています。

部会長

ご指摘は、もう少し強く書いておいた方がよいということではないですか。

委員

千里中央から人が減っていかないように、力を入れる姿勢をもう少し書き込んでもよいと思います。

部会長

10 年ほど前、大阪府が区域全体の副都心都市構造のようなものを作られた時の議論で、千里中央から萱野が副都心として、丸（点）ではなく線（面）で表現されていました。千里中央と萱野の間がハブ機能を持つということでした。北のほうの活性化に大阪市、豊中市が手を貸すといった状況に感じました。豊中市として、千里中央駅周辺の活性化をどうするのかということです。桃山台あるいは東西軸のほうに都市核の活性化を考え、力を入れた方が豊中市としてはいいということかもしれません。施策の括りとして、主な取組みの「千里中央駅周辺の活性化」が施策「3-4 良好な住環境の形成」に含まれるのか、もう少し大きな問題ではないかという気がします。

事務局

施策の名称を考える必要があるかもしれません。

委員

慣れていない人が聞くイメージと、本来狙っている趣旨との間に若干かい離があるかもしれません。おそらく住んでいる住民にとっての環境といったニュアンスで住環境としているかと思いますが、一般的には住環境というと5m～10m範囲ぐらいの家の周りのイメージ、ごみ捨て場がきれいか、近くに公園があるか、段差がない環境かどうかなどのイメージだと思います。

部会長

施策名称が小さすぎるということだと思います。施策の方向性には、都市拠点等が入っていますので、「都市魅力」も組み込んで施策の名称を検討いただいた方がよいかもしれません。

委員

施策名を平たく書こう、一般の市民が見た時に分かるようにというのはよく分かりますが、住環境という逆と違うイメージが与えられるのではないかということです。これまで大多数の住民にとっての環境が住環境だったということかもしれませんが、一般的に住環境という表現でイメージされることが違うので、ミスリーディングになってしまうと思います。住まいのレベルの話だけではないので、表現を検討していただいた方がよいと思います。

部会長

施策名の「良好な～」は少し足りないかもしれませんので、例えば「魅力的で良好な～」とする、また、大きなコンセプトが「みらい創造都市」なので、これまでの住宅都市としての住環境をこのまま引きずっていくということではないので、「創造的な～」といった表現にすることも考えられるかもしれません。都市の拠点づくりを包含するような表現を検討してみてください。

委員

サブタイトルはこのままでいいかもしれません。住宅という話に限定しないようにしたほうがよいと思います。個々の住宅は各オーナーになりますが、都市環境はその集合体で、行政の出番だと思いますので、これは大事な話かと思います。一般的には、例えば工場の操業環境との騒音の話、日影などの話が住環境と捉えられると思います。よく読めば、それらを含めマクロな話をしているのがわかりますが、住環境といった時には限定されたイメージになるので、気をつけたほうがよいと思います。

部会長

表現をシンプルにすると、どうしてもこういった問題が出てきます。豊中市が高次都市機能を持つのか持たないのかという大きな戦略に関わります。千里中央の話となると、都市拠点という話になるので、表現を検討してください。

委員

今まで終点だった駅が延伸で終点でなくなったために、だめになってしまった事例はありますか。

部会長

東京の場合は、だいたい再開発をします。延伸先で開発し、沿線の乗降客数が増える見込みで延伸しますが、今回は増える要因がない延伸となるので、ゼロサムゲームとなってしまいますので、再開発をして内容で勝負をする必要があります。目的をもって来てもらえるようにしないとイケません。乗降客は、2割減という数字がはじかれています。千里中央地区活性化ビジョンがあると思いますが、それがとまっているのではないですか。

また、施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」の内容は、これでよろしいか。ネットワークに関わる意見が第1専門部会ででています。福祉において、地縁型とテーマ型の緩やかな連携をとれるようにすることが求められていますが、誰がコーディネートするのかといった問題がでていました。福祉だけでなく全体的な話として広げて、豊中市における協働・参画を書き込むのかということがあります。豊中市には、NPO政策はありますか。神戸市などは「プラットフォーム課」というのがあり、認定団体の情報を捉えたり、研修したり、新規事業として予算措置をして公募するなどを行われています。地域の活動団体を育てていくための専門部署はありますか。

事務局

本市ではコミュニティ政策課があり、NPOの認証、寄附を募りながら活動の補助などを行っています。コンペ方式で、行政からの課題提示に対する提案と団体からの自由な提案の2つのパターンで事業を進めています。

部会長

主な取組み「地域自治組織の設立および活動支援」は、こういった方向で進めようとしているのか、今後地域自治組織の数を増やしていこうとしているのか。

事務局

既に制度があり取組みを進めています。41校区中7地域で地域自治組織が設立しており、2地域で設立に向けて検討が進められています。

部会長

一般的には、活動支援だけでなく活動の促進という文言が入ってきます。促進がつくと、それに対する予算がつきますが、つかない場合、行政は制度を待っているだけでよいということになります。

事務局

地域自治推進条例により進めています。

部会長

本日の意見は、事務局で整理して5月に答申案を示しいただきたいと思います。

事務局

1点、ご意見をいただきたい点があります。前回の市民活動団体との意見交換でコミュニティビジネス(CB)、ソーシャルビジネス(SB)の話がでており、これから行政だけでは届かないサービスを地域の力を借りていかなければならないことが明らかである一方、少子高齢化の中、地域における担い手も難しくなってきており、地域においてもビジネス手法で展開していくことが必要になるというご意見がありました。施策「5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」で、ビジネス視点での協働が書ききれているのかどうかについて懸念があり、ご意見をいただければと思います。

委員

【資料1】平成28年度豊中市総合計画審議会 第1回第2専門部会議事要旨(案)の9ページ、団体の方からの意見がありました。こういった話は、ブレーキの役割にしなければ書いてもいけないかと思えます。じゃまにならない書き方をしていれば、やる気になればできるということになります。当事者からすれば、もっと強く書いてほしいという意見は当然あるかと思えますが、ただ、「協働します」と書いてあり、行政だけではできないから、その他の団体を元気にしていきますと書いてあるので、総合計画ではそこに含まれるとしてもいいのではないかとも考えます。強いて言えば、主な取組み「市民が主役のまちづくりの推進」の文中の「～継続的に展開できるよう支援します。」の表現かと思えます。団体の方からは、ビジネス手法でやることによってはじめて資金的にも人材的にも回る、善意だけでは限界があり、かといって純然たるビジネスとしてやっていくにはマーケットが小さいといったお話でしたので、例えば、「様々な手立てをふまえて」、または「従来の方法にこだわらず」といった文言を加えるということも考えられるかもしれません。総合計画なのでどこまで書くかはありますが、従来ではお金を稼ぐのに支援はできないというのが公のスタンスであったが、CB・SBという新しい枠組みにおいて、積極的に支援をしていく方向性を示すという考え方もあるかもしれません。

部会長

主な取組み「協働事業の充実」の文中に、入れることも考えられませんか。

事務局

現在、相談対応や利子補給、CB・SBの担い手育成などの取組みは行っております。ただ、この5年間で継続的にビジネスとして行っていくことができるようにしていけるかは見えていないところがあります。国のほうでも、投資家から資金を調達し成果が上がった場合のみ行政が資金を拠出する方法（ソーシャル・インパクト・ボンド）もモデル的に取り組んでいくということもあり、市として、この5年間で具体的に取り組んでいけるのかが難しいかもしれません。

委員

全く新しいスキームで、制度も不安定なので、進捗に関する検証はあまりしなくてもよいのではないかと思います。市は伴走者だと考えます。今は直接手を貸したほうがよいのか、貸さなくてよいのか、マネージメントに問題があり中間組織を支援するほうがよいのかなど、保健師さんのような、直接治療するのではなく、判断する役割だと思います。

部会長

CB・SBの登録はどこにするのですか。任意団体が「やります」といって進めていると思いますが、受益者側からすれば、多様な選択ができるのはよいが、信頼性をランク付けしてほしい、安心感がほしいという思いもあります。CB・SBの推進において、受益者側から行政に期待したい点として、信頼供与があるのではないですか。

委員

クラウドファンディングでも、各事業者の取組みを商工会議所がPRを行います。商工会議所の信頼で投資をしてもらえる面もあります。行政の役割としては難しい点があるだろうと思います。

事務局

もう少し研究したいと思います。

部会長

協働は、概念ではなく仕組みを見せてほしいという思いは市民にあるかもしれません。「協働事業の充実」においては、検討してください。

●「3. その他」

事務局

次回の日程は5月12日18時～です。場所は追って連絡します。

部会長

これで第2専門部会を終了します。

●閉会